

中学校の通級におけるビジョントレーニングの効果

齋藤 富由起

Effectiveness of Vision Training in an special support services in resource rooms in junior high school

Saito Fuyuki

1. 問題提起

1-1. 通級におけるビジョントレーニング

子どもの学習の困難さに応じてなされる特別な特別支援教育において、具体的な支援の土台としては個別の教育支援計画、個別の指導計画、教員配置の工夫、加配制度の利用、カリキュラムや施設・設備面の環境改善、通級指導教室（リソースルーム）の利用などがあげられる。

このうち通級による指導は、学校教育法施行規則第140条及び第141条に基づき行われている。

しかし、通級における指導の実際は多様であり、通級による指導とは、特別支援学校の自立活動に相当する指導と定められてはいるものの、その実際は不明な部分が多い。

こうした通級指導においてビジョントレーニングが注目されている（北出，2011；北出・宮口2019）。竹本（2014）は大阪府の小学校の通級にお

いてビジョンとエーニングを3か月にわたり定期的に行い、漢字の書き取りの向上や現学級の教員からの高評価などの結果を得ている。

では、ビジョントレーニングは中学校の読み核不全について効果を発揮するのだろうか。通級の学びは多様であり、ビジョントレーニングの実践だけが直接的効果とはいえないものの、中学生の読み書き不全について何らかの効果を及ぼすとの仮説が立てられるだろう。

2. 目的

本研究の目的は中学校の通級においてビジョントレーニングの効果がみられるという仮説を検証することである。中学校の通級を対象にビジョントレーニングを約3か月間、実践した結果を検証する。

3. 方法

(1) 調査協力者：関西地方の複数の公立中学校

■学校教育法施行規則第140条

第140条 小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校において、次の各号のいずれかに該当する児童又は生徒（特別支援学級の児童及び生徒を除く。）のうち当該障害に応じた特別の指導を行う必要があるものを教育する場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、第50条第1項（第79条の6第1項において準用する場合を含む。）、第51条、第52条（第79条の6第1項において準用する場合を含む。）、第52条の3、第72条（第79条の6第2項及び第108条第1項において準用する場合を含む。）、第73条、第74条（第79条の6第2項及び第108条第1項において準用する場合を含む。）、第74条の3、第76条、第79条の5（第79条の12において準用する場合を含む。）、第83条及び第84条（第108条第2項において準用する場合を含む。）並びに第107条（第117条において準用する場合を含む。）の規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。

- 一 言語障害者
- 二 自閉症者
- 三 情緒障害者
- 四 弱視者
- 五 難聴者
- 六 学習障害者
- 七 注意欠陥多動性障害者
- 八 その他障害のある者で、この条の規定により特別の教育課程による教育を行うことが適当なもの

■学校教育法施行規則第141条

第141条 前条の規定により特別の教育課程による場合においては、校長は、児童又は生徒が、当該小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校の設置者の定めるところにより他の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の小学部、中学部若しくは高等部において受けた授業を、当該小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校において受けた当該特別の教育課程に係る授業とみなすことができる。

通級指導に通う生徒（中学1年生3名 中学2年生6名 計9名 全員男性）

(2) トレーニング日時：2022年9月から11月

(3) トレーニング内容：効果を確認するため、竹本・斎藤（2015）、斎藤・竹本・吉田（2020）と同様に、追従性眼球運動・跳躍性眼球運動・輻輳眼球運動を基本としてその時々課題を加えて行った。
また、必要に応じてジオボードによる漢字の練習を加えた。

(4) トレーニング時間：5分から10分であった。

(5) 効果測定に用いた尺度

DEM (Developmental Eye Movement Test)

DEMは、衝動性眼球運動の正確性を測定するテストである。並び方が異なる2種類の数字表を読ませ、速度と読み誤りを記録する。検査実施に際して特別な知識や経験はさほど必要なく、定量化された結果が出ることから、アメリカを中心に広く眼球運動検査として使用されている。DEMは、テストA (Fig6)、テストB、テストC (Fig7) から構成されている。テストA、テストBは同様のフォーマットで、文字間隔が狭く等間隔に並んだ数字列を音読させる眼球運動への負荷の低い数字呼称課題である。テストCは、文字間隔が広く不等間隔に並んだ数字列を音読させる眼球運動への負荷の高い数字呼称課題である。テストCのタイムは、読み飛ばしと読みたしを考慮して、テストC調整タイムに変換する。テストC課題中の数字総文字数とテストA・Bの数字総文字数の合計は同じであり、衝動性眼球運動の正確さはテストCの調整タイムをテストA・Bの合計タイムで割った比率により算出を行う。

4. 結果と考察

4-1. ビジョントレーニングの効果

中学校の通級教室におけるビジョントレーニングの効果を検証するために、DSMのスピードについて9月の平均値と12月の平均値を比較した。9名の結果を見ると、9月と12月のDEM検査結果から、t検定により縦読みの平均値を比較すると39.4から32.4秒と7.0秒早くなり、横読みも78.9から62.1秒と16.8秒早くなっていた。したがって、中学校におけるビジョントレーニングの効果が認められたと考えられる。

4-2. ビジョントレーニングの効果

通級においてビジョントレーニングの効果は認められたものの、生徒たちがその学びをどのように感

じたかは本研究からは明らかではない。自由記述からは「目の動きがスムーズになると、漢字の勉強だけでなく、本を読むことが好きになってくる」などの他の学びへの般化も一部報告されており、今後の検討課題といえる。

ビジョントレーニングが例えば読み書き障害そのものに作用して、読み書きのスキルアップにつながるという考えももちろん可能だが、他方で、読み書きのために教員がこのような工夫をして丁寧にかかわっているという関係形成要因も影響をしていると考えられる。それらはスキルの効果というよりも教育的効果といえる。関係形成要因を含んだスキル効果の検証も今後、検討する必要があるだろう。

引用文献

- 北出勝也（2011）ビジョントレーニング「児童期思春期のSST」三恵社。
北出勝也・宮口英樹（2019）ビジョントレーニングとは何か 作業療法ジャーナル, 52, 13.
竹本晴香（2014）ことばときこえの教室におけるビジョントレーニングの効果 日本LD学会第18回大会発表論文集。
竹本晴香・斎藤富由起（2015）小学校におけるビジョントレーニングの効果 日本LD学会第18回大会 自主シンポジウム配布資料。
斎藤富由起・竹本晴香・吉田梨乃（2020）発達障害傾向のある小中学生におけるビジョントレーニングの効果 千里金蘭大学紀要 (17), 17-22.